

令和4年度第1回白井市まち・ひと・しごと創生審議会

議事概要

日時：令和4年5月17日（火）午後2時から3時30分

場所：白井市役所本庁舎4階大委員会室

出席者：【委員】

高尾 公矢会長、山田 壽一副会長、伊藤 治委員、齊藤 重光委員
駒村 武夫委員、染谷 敏夫委員、成島 誠二委員、森 秋文委員、
窪田 若菜委員

【事務局】

企画政策課 池内課長、武藤主査、高橋主任主事、中村主事補
秘書課 齊藤課長

傍聴者 2人

1. 開会

2. 議題

(1) 令和3年度地方創生推進交付金の検証について

【会長】

それでは、次第に従いまして議事を進行してまいります。

まず議題1です。令和3年度地方創生推進交付金の検証についてです。事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】

資料1に沿って説明。

【会長】

それでは、ただいま事務局のほうから、検証シートを用いて説明をいただきました。皆様方には、これの審議をお願いしたいのですけれども、1点目は、その際に、KPIの達成状況を踏まえて議論をお願いしたいということなのです。

2点目は、この事業が地方創生において有効であるかどうかという点を議論願いたいということです。

3点目は、事業の良い点、あるいは逆に、改善点、こうしたほうがいいのではないかと意見がありましたら、それを頂いて、この審議会の中でとりまとめていきたいと思っておりますので、話をまとめるように審議をお願いしたいということです。ひとつよろしく願いいたします。

それでは、委員さん、いかがですか。

【委員】

こういったまちづくり、市民の皆さんを巻き込んで、一緒になって成果を上げていく、この取組自体は大変素晴らしい考えだと私は思います。取組そのものも大変素晴らしいですし、やっている内容も、一つずつ丁寧に取り組んでいると思います。

【会長】

ありがとうございます。

ほかにご意見がありましたら頂いて、そして、それについて審議をお願いしたいと思います。

今、委員さんのほうから、やっている取組自体は非常に素晴らしいという評価をいただいたわけですが、この点を改善したほうがいいのではないかと、もう少しこういう点をとというような点がありましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

委員さん、いかがでしょうか。

【委員】

実質、始めて3か月ですか、その中ではアクセス数が目標を上回ったということですので、評価的には良かったかなと思います。

これからの方針の中で、このサイトをどうやって皆さんに周知していくかというところが非常に重要になってくるのだらうと思います。アクセス数がこれだけ短期間で達成できたというのは、非常に良かったのかなと思います。

【会長】

ありがとうございました。アクセス数が十分来ているということで、短期間にこれだけ伸びているということが評価できるのではないかとのご意見でしたけれども、さらにご意見頂いて審議していきたいと思います。

皆さん方、どうぞご自由に発言願いたいと思います。

どうぞ。お名前をお願いいたします。

【委員】

よろしく申し上げます。

事業者数と団体数、50の目標に対して28でとどまっているということですが、私も実は、しろいまっちを入れていまして拝見しているのですが、正直、この事業者数の数が50とか70を切るということは、やはり魅力に欠けるのではないかなというふうに思っています。それが28でとどまっているので、そこが少し、この内容だと魅力発信には物足りない感じがするというふうに思いました。

実際に、恐らくこの掲載するのに、今のところは有料でしたよね。その辺のところの補助とか、そういったことも市では考えているのか。圧倒的にこの団体数を増やすという施策を打ち出していくべきではないかなと思います。

【会長】

行政のほうに質問ですけれども、今、質問がありましたけれども、団体数を増やすという点について説明お願いしたいと思います。

どうぞ。

【事務局】

この事業を担当しております。今、委員さんのほうからご指摘をいただきましたとおり、事業者数、団体数というのは目標に達しておらず、さらに、その目標数自体も、少し物足りないのではないかなというご意見だと思います。

先ほど、ほかの委員さんからもございましたとおり、この1月から「しろいまっち」のほうからスタートしたわけですけれども、確かに市としても、この辺の団体数、事業者数の協力というのは得ていかなければ、市の魅力の発信にはつながっていかないものと考えております。

一つ、市民団体のほうから話をさせていただきますと、当初、掲載に当たっての説明会等も開催をさせていただいたのですけれども、そもそもの周知不足等もございましたので、この3月に、改めて2回目の説明会もさせていただいたところです。

それから、掲載事業者について、有料ということでお話があったのですけれども、実はこの事業は、市の事業としては、令和3年度から5年度までの3か年になるのですけれども、令和6年度以降については、市の委託費が全くなくなりまして、今度は委託事業者のほうで自走していただくことを念頭に委託をしております。

ということで、その際には、掲載事業者からの記事を掲載するに当たっての料金等が資本になってくるかと思しますので、その記事の掲載について、市が補助するというのは今のところは考えていないところです。

ただ、掲載事業者を増やすための方策というのは、これからいろいろ委託事業者と市のほうとしても考えていかなければいけない大きな課題だと考えておりますので、それはこの令和4年度がちょうど中間年になり、大変重要な年になってくるかと思しますので、今年度、早いうちから事業者等と、その辺については十分協議してまいりたいと考えています。ご意見ありがとうございます。

【会長】

前回の会議でもありましたように、3年間は交付金があるわけですが、それでやっていけるけれども、その後をどういうふうにするということが、この事業を継続していくためには重要な課題だろうということでしたよね。その辺は、業者とどういうふうな打合せがなされているのですか。

【事務局】

まずは、サイトを充実させまして、さらにはアクセス数、それから訪問者数を増やして

いくというのが一つ、掲載事業者からすると、サイトの魅力につながるのではないかなと考えております。

それで、この1月にアクセスキャンペーンというのを実施しましたがけれども、今年度、この5月13日からまた改めて謎解きのほうを活用しまして、5月末までの期間になりますけれども実施します。またこういったいろいろな企画を行いまして、まずは来訪者をさらに増やして「しろいまっち」の周知をしていかなければいけないということで考えております。

今年度につきましては、この謎解き以外にも、自然薯のレシピコンテストとか、そういった企画も今検討しておりますので、まずはその辺で、この「しろいまっち」の魅力をそもそも上げていかなければいけないというところで事業者と協議をしているところです。

以上です。

【事務局】

今、画面上でやっているのが、この5月の半ばから始まりました「新緑のなぞときキャンペーン」という形で、こういうふうな企画を委託事業者と市のほうで行う形としております。

【会長】

ほかにご意見、ご質問をお願いします。

【委員】

質問なのですが、多分、前回のときも私、質問したと思うのですがけれども、その料金的な事についてです。3年間に関しては市のほうで支援をして、それ以降に関しては業者が主体となるということで了解したのですが。今回のお話では、掲載する際にも企業側は有料で掲載するということですが、その決済について、業者さんが得た収入は、市は支援しているが、プラス企業側からもらった時の収支報告みたいなものはお任せし、利益があろうとなかろうと、それはこちらのほうに報告はないということではよろしいのですか。収入があった場合に、それはどこに帰属するのかという点が出てくると思うのですが、それは必要ならば、業者にお任せして市は一切関わらないということなのではないでしょうか。本来ならば、市が支援しているお金により、3年間は、企業としては無料で掲載できるけれども、3年後からは、今までの効果を見て、良ければ継続するし、効果がなければやめますという判断がとれるかと思うのです。初めから有料だということはよく分からないのですが、いかがでしょうか。

【事務局】

それでは、お答えさせていただきます。1月から始まっている「しろいまっち」で有料広告分については、基本的には委託事業者の収入となります。

ただ、市のほうは全く関与していないわけではなくて、有料の事業者であるとか、その辺の収入等については、随時報告は受けております。その辺の金額も原資にいたしまして、

4年目以降の自走してやっていくための基本的な金額になるものかと考えております。

補助金ではなく委託金ということでやっておりますので、4年後を見据えた形で既に委託事業者としては動いております。実際にこの事業だけで4年後以降に収支が整うかどうかというと、正直言うと、少し苦しいところはあるのですが、今回、市のほうでは事業者と協定を結びまして、4年目以降については自走でやっていくということと、それから、この事業者自体はそれ以外の事業も幾つかやられていますので、その辺をトータルで考えて運営を継続していくことで了解を得ております。4年目以降については、すぐに収支が取れないからやめるといったことはないとということで市のほうとしては考えております。

以上です。

【委員】

そうすると例えば、初めの予算というか計画としては、50という企業の数を出したけれども、無料なら出すけれども、有料なら遠慮しますというような企業もあるのかなのか。また、それが令和4年度になると70とか90になった場合に、それだけ有料であっても大変魅力のあるサイトであるかどうか、まだ判断できない点があると思いますので、躊躇するようなことも、なきにしもあらず。そうすると、この28以上に果たして増えるのかどうかということも懸念されます。3年間は、取りあえず市のほうでもって援助するから、スペース的には小さいけれども、取りあえず載せてというようなことは難しいのですかね。

【事務局】

当初、そういった話も、確かに市のほうでも考えている部分というか、4年目以降のことを考えて、どうしていこうかというところがあったのですが、仮に市が委託している間、無料にしていたときに、4年目以降にそういった企業が一切いなくなってしまうという可能性もございます。

実際、委託事業者に営業等で回っているときに、最初は例えばサービスで1か月は無料で、2か月目以降からというような話もしておりますけれども、やはり無料期間が終わるとやめていくという事業者が実際におられます。今のうちから最初の3年間全て無料というのは、この事業を成立させていく上でもなかなか難しいのではないかなということを考えておりますので、1日も早く、このサイト自体を魅力あるものにしていくというのが、まずは先決なのではないかなと考えております。

以上です。

【委員】

無料の間にできるだけ内容のあるコンテンツを作るように努力するのであって、それでも駄目ならばやめてしまって、それが破綻してしまうということもあろうかと思うのですが。その間で、いかにしてその業者さんも含めて、より魅力のある、企業にとっても素晴らしいものにするかというのを考えるのが筋であって、後々のことを考えて現在、有料化

というのは、不思議だなと思いました。

以上です。

【会長】

現在、有料の部分があるので、かなり業者のほうとしても出しにくいというようなことが起こっているのではないかということですよ。

【委員】

そうです。有料の場合の費用についてですが、各企業どこでも事業者は同じなのか、または、その事業規模によって、若干費用が違うのかというのは、もし言えるのならば教えてもらいたいです。

【事務局】

細かい資料を私、本日、手元にないので申し訳ないのですが、コメントを差し控えさせていただきます。申し訳ありません。

【会長】

行政が関わっているわけですから、法外な値段ではないということで理解してよろしいですか。適切な値段だと。

それでは、ほかにご意見がありましたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。どうぞ。

【委員】

よろしく申し上げます。今お話あったとおりなのですが、2番の事業者・団体数が令和5年で90とあるのですが、4年後、それを自走するというお話の中で、団体の数が90で自走できる想定数なのでしょうか。

【事務局】

今、正直申しますと、90で自走できるかどうかというところは、私のほうがそこまで把握できておりません。大変申し訳ないです。ただ、90でできるかどうかという、もしかしたら難しいのかもしれないです。

というのは、先ほどお話ししたとおり、協定を結ぶ段階で、収支が悪くてもある程度はやっていきますというお話が前提にございましたので、その辺で、もしかしたら目標の90というところでは少し足りていないのかもしれないです。我々の収支計画自体が今、資料で私、本日持ってきていないので申し訳ないですけれども、これについてお答えのほうは難しいです。

【会長】

問題は、その辺ですよ。前回はそこは議論になったと思うのです。だから、よほどサイトを魅力のあるものにしても、団体に関わってくれなければ事業としては成り立たないわけですから。だから、業者のほうとしても、赤字を背負ってまで運営をするということに関しては、どうなのかということでしょうね。

白井市が発注して白井市中心でやっているのでしょうけれども、市外の事業所なども登録できるようにすると思うのです。市内だけでまとまってしまうと、アクセス数は限界があります。ですから、市外の近隣の範囲にまで広げてやっていただくというのも、一つの手法だと思います。この業者は、白井市のほかにも数か所の行政体でやっていますので、そことマッチングさせるような工夫というのは、これから必要じゃないかなと。特に、求人情報に我々は期待をしているのですけれども、当然、市民の中の就職を基本的にはお願いしたいのですが、より多くの、より優れた人材を募集するというのは、市外を含めて通勤可能な範囲にいる方々にお願いしたい。また、企業も白井市の市民を雇用したいということであれば、隣の鎌ヶ谷だとか、船橋だとかそういった事業所がここに登録できるような仕組みづくりをして、このサイトが白井市だけではなくて、白井市を中心とした大きなサイトになっていくことが自立できるサイトでないかなというふうに思います。その辺は補助金を入れている関係でどうなのか、今後の展開がもし分かれば、期待をしているのであれば、お願いしたいと思っています。

【事務局】

やはりこのサイトは、ご意見のとおり市内だけで完結するものではなくて、市内の人は白井市だけで生活をしているわけございませんので、近隣等についても、これから少しずつ拡大をしていきたいと考えています。

例えば、遊び場等と言いますと、この近辺と言いますとアンデルセン公園であるとか、隣の鎌ヶ谷市、印西市にはイオンがあったりということで、いろいろ生活圏というのがございます。今のところは、まだ始まって3か月ということなので市内を重点的にやっておりますけれども、少しずつそういったエリアを拡大していくというのは有効な形だと思います。

それから求人情報等についても、今ご意見頂きましたので、これから委託事業者と協議をしてまいりたいと考えております。ありがとうございます。

【会長】

ほかにご意見ありましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

【委員】

聞き漏らしていたら大変恐縮なんですけれども、質問で「なし坊サポーターズ」ってあるじゃないですか。これと「しろいまっち」というのは、何らかの連携ってあるんですか。

【事務局】

「なし坊サポーターズ」は、市がシティプロモーションを積極的に推進していこうというときに、市民の方を委嘱して始めた事業なのですが、実を言いますと、コロナ禍もありまして「なし坊サポーターズ」の活動自体が、今ほとんどできていない状況がございます。これまでいろいろな動画を上げていただいたりとか、写真を撮ったものを市のホームページとかに載せたりはしていたのですが、今現在「しろいまっち」との連携というの

が行われておりません。これから「なし坊サポーターズ」のこれまでの活動等についても、市のほうとしては、ホームページ等で市民の皆さんにお知らせをしていくとか、そういった形を考えておりますので、そういった場合には「しろいまっち」のほうにも掲載をして、その活動のPRなどもできるのではないかなと考えております。

以上です。

【委員】

全く余談なのですがけれども、せっかく「サポーターズ」さんがあって、魅力をどんどん、どんどん発信していこうというところがあるので、ぜひ「しろいまっち」とは連携していただいたほうがいいと思います。

本当に余談なのですがけれども、この間、たまたま来迎寺ですか、しょうぶ祭りをやる前に通って、こんな素晴らしい場所が白井にあるのだと思ひまして。そういったのも、どこを見るとそこにつながるかなと思って。なかなか白井市のホームページからたどり着かなかったので、そういったところをぜひ町の方が発信していただくところに「しろいまっち」と連携すると、より良いものになっていくのではないかと思ひました。

【会長】

ありがとうございました。

ほかにご意見ありましたら、お願いします。

【委員】

事務局に質問なのですがけれども、今後の方針で、月1回定期的に会議を行っていくということなのですが、これの参加メンバーといいますか、部署とかセクションとか、どういう人間がここに参加をされるのかを教えてくださいませんか。

【事務局】

この情報共有と連携というところで、月1回程度の打ち合わせというのは、あくまでも担当課と委託事業者との定期的な連絡会議のことを記載させていただいております。定期的に課題でありますとか、今後の方針などの打合せをさせていただいて記録に残しているところです。

ただ、これ以外にも、担当者同士では、常に電話でとか直接市に来ていただいて打合せ等はしているところでございます。

以上です。

【事務局】

補足です。実際、担当課としては秘書課のほうになるのですがけれども、例えば、ほかの課でこういうのを発信したいというのがある場合は、1回秘書課を通した上で、この「しろいまっち」の事業者さんとほかの、例えば企画政策課でしたら企画政策課の担当者との間で打合せを行って発信ということもやっていただいております。今、説明ありましたとおり、定期的な会議とか、市としての方針については、秘書課と事業受注者のほうとでやっ

ている形になりますが、個別のイベントや情報発信したい内容につきましては、それぞれ、都度都度、実際発信したい担当課と事業者のほうとで連携は行っているところであります。

【委員】

市の中でもいろいろセクションがあって、それぞれが情報とかを持っていると思うので、そういった市役所内の横の連携というのを強化してやっていただければと思います。よろしくをお願いします。

【会長】

ほかに、何かありましたらお願いします。

【委員】

私も、最近になってしまうのですけれども、こちらのサイトのほうにアクセスさせていただいて、私、個人的な関係からすると、いろいろとつながりやすくなったなど。こちらの当初の目的であるまとまりとかが、かなり感じたことであります。

あと、サイトとしますと、無理な問題かもしれませんが、謎解きなどの企画のように、一つ目玉になるような何か企画を難しいですけれども立ち上げて、それでもっといろいろな人に入ってこられるようなもの、誘導するようなものがあつたら、もっと広がるのではないかなと個人的には思いました。

以上です。

【会長】

ありがとうございました。

それでは、委員さん、ありますか。ご意見お願いしたいと思います。

【委員】

サイト自体は、とてもよくできていると思うのですけれども、例えば前回か前々回に頂いたこの「しろいまっち」の冊子があると思うのですけれども、実際、私の周りにこの「しろいまっち」の存在を知っている人がいなくて、例えば幼稚園にこういった冊子を配布するとか、そういう予定とかはあるのでしょうか。

【事務局】

幼稚園等に冊子を配布するという予定は今のところはないのですけれども、確かに今あまり知っている人がいないというのは、そもそもの問題になりますので、周知方法については、改めて検討させていただければと思います。ありがとうございます。

【会長】

ほかに気づいたことありませんか。

【委員】

あと1点なのですけれども、サイトの内容はすごくいいのですけれども、今日現在見て、求人情報が例えば1件しかなかつたり、飲食店の情報もたくさん載ってはいるのですけれども、そこに口コミが全く書かれていなかったり。これはサイトが1月に始まってまだ3

か月しかたっていないので、仕方のないことだと思うのですが、近隣の情報を知るに当たって、市民は例えば「印西トピック」さんとか、民間のブロガーがやっている情報を見て、結構イベントとかを確認している場合が多いと思うのですが、そういったところとも競合していかなければならないと思うのですが。ネットだけで完結するのではなくて、そういったリアルな生活と実際につながる方策とかはお考えなのでしょうか。

【事務局】

現在のところは、今お話しされたような具体的な方策というのは、市と事業者ではあまり話はできていないのですが、今ご指摘いただきましたので、確かに民間のブロガーでありますとか、そういったところが競合というのか、連携をしていくのか、今のところはまだですが、周知を、知名度を上げていくということと、そういったサイトの研究とか、アクセス数を増やして知っている人を増やしていただいて、「しろいまっち」から市の情報を取っていただくような形に持っていかなければいけないということは考えておりますので、そこは、これから事業者とも深く研究をというか、時間があまりありませんので、協議をしていきたいと考えております。

以上です。

【会長】

ほかにご意見ありますか。

【委員】

この資料1全体についてなのですが、まず、PDCAでいうと、プラン、ドゥー、今チェックの段階で、次のAの部分にこれを関連づけていかなければいけないと思っております。

そうしますと、今後の方針の中で、事業効果がこの文書では「地方創生に非常に効果的であった」という文言があるのですが、これは1月から今まで4か月の間において、この表現のように「非常に」というのを、今この段階で使ってしまっても大丈夫なのか。「非常に」ならば、どれだけ「非常に」なのか。特に、この令和3年のところの「プラットフォームにおける事業者・団体数」が達成させているのであるならばいいのですが、まだ達成されていない段階において、この段階で「非常に」というのをよりかは、取りあえず「効果的であった」というような少し控えめな表現のほうが後々いいのではないかと思います。

あと、令和3年に関しては評価します。令和4年、令和5年のプラットフォームを活用して行われたイベント数に関するところなのですが、今まで7のイベントが15と書いてありますが、具体的にどのような内容のものなのか、「今後の方針」のところでは「サイト主催のイベントを開催し、」と書いてあるのですが、今の倍の数ですから、具体的なものもこのところに表現的に入れておくといいのかなと思います。先ほどの事業者の数にしろ、アクセス数にしろ、今の7.5から25というのは2倍近くいってしまいますので、このよう

な方法を通して増やしますと。そのためには、プラットフォームをこのような方法でより改善していきますよというように、グレードアップするものを方針の中に一応打ち立てておかないと、まずいような気がしたのですけれども、いかがでしょうか。

【会長】

今のご質問に対して、事務局はどのようにお考えでしょうか。

【事務局】

まずご指摘のように、事業効果につきましては確かにおっしゃるとおりだと思いますので、表現のほうは、例えば3か月間としての期間としては効果的であったとか、そのような形に改めたいと思います。

【会長】

それがいいと思いますよね。

【事務局】

あと、可能な限りイベント数ですが、そちらのほうにつきましては、分かる範囲で記述してまいりたいと思います。

以上です。

【会長】

委員さん、それでよろしいですか。

【委員】

結構でございます。

【会長】

ほかにご意見。どうぞ。

【委員】

取組は大変素晴らしいと思います。だけれども、これは知られていないと。先ほどもそういうお話がありましたけれども、どう具体的にPR活動をしていくのかということ、もう少し工夫していくのではないかなと。例えばマスコミを使うとか、新聞を使うとか、そして、このプラットフォームの存在とその効用とか、あるいは企業がどうしたら参加できるかとか、そういったことを丁寧にしてあげると、もっと皆さん入ってくるのではないかなと。

工業団地の会社が270近くありますけれども、その会社に、どのような方がこれを知っていますかと。私もその一員で、そういうことを言ったら申し訳ないけれども、知っているのかというふうに聞いたら、多分、皆さん知らないとおっしゃると思います。ですから、そういったPR活動、これをやらないと、そのもの自体でもって広がることはなくて、別なところから働きかけをして知ってもらおうというところが必要ではないかなと。要するに誘導しないと、ここへ来ないということではないかと思います。成果が上がれば、皆さん入ってくると思います。

【会長】

アクセス数を増やすにしても、団体数を増やすにしても、知らなければ話にならないわけですね。

【委員】

そうですね。

【会長】

工業団地が200何十あるとすれば、そこが全部加入して何らかの形で活動してもらえば、それがアクセス数も上がってきますし、効果もあると思うので、ひとつよろしくお願ひしたいと思います。

【委員】

ぜひ委員さん、よろしくお願いします。

【会長】

委員さん、よろしくお願いします。

【委員】

全社に配ってあります。

【委員】

配ってあるけれども、結局は伝わっていないのですよ。配っただけじゃ駄目だという。

【会長】

だから幼稚園、保育園にも配るとかいうことも重要なかもしれないですね。

【委員】

何かもっと手立てがいるのではないでしょうかね。

【会長】

そうですね。

個人的にこの「しろいまっち」を見させていただいて、白井のまちにこんなことがあった、こういう事業があるのかとか、こういうイベントがあったのだと初めて知るといようなことがあって。これは今までの役所のホームページとは大分趣が違って、非常に分かりやすい、あるいは親しみやすい、そういう企画になっているという点では、非常に評価できると個人的には思います。

ただ、これからの問題も含めて見ますと、要するに白井の内側なのだと思います。主に白井市の中に伝えているのです。もっと外に伝えていくというか、そういう作業が、先ほども委員さんからの意見も、それから委員さんからの意見も出ましたけれども、外へ向かって発信していくというようなことが重要なのかなと思いました。白井の住民だけではなくて、外に向かって発信していくことが大事だと思います。

例えば工業団地で世界的なことをやっている、そういう事業所があるのですよとか、それからもっと言うと、白井の梨を船橋に負けないで発信していくというような、そういう

ことがこれから必要になってくるのではないかというふうに思いました。だから、サイトの内容をもう少し外に向かって発信していくというようなことも必要なのではないかというふうに個人的には思いました。

それでは、時間の関係もありますので、議論をまとめますとこの事業自体は、地方創生において、短い期間でしたけれども有効性があったと思われれます。という点でよろしいでしょうか。

ただ、K P I の達成状況で言いますと、プラットフォームにおける事業者、あるいは団体数が少ない。それから、プラットフォームのアクセス数自体も低調だと。それを発信していくためには、内容を変えていくと同時に、内容をもっと魅力的なものにしていくと同時に P R 活動とか、先ほどもおっしゃられましたように、いろいろな媒体を通じて P R 活動をしていくということが必要なのだろうという点です。

良い点としましては、魅力を発信しようとする努力というか、そういう点は高く評価できると。今までと違った魅力を発信するという点では、非常にいい事業であろうというふうに評価できると思いますけれども、大体こんな感じでよろしいでしょうか。もし、こういう点をという点があれば、お願いしたいと思います。

議論をまとめてみましたけれども、現在のところ、まだ3か月ですので、今後のことも気に掛かりますけれども、3か月の範囲の中では効果的な事業と言えるだろうし、これから期待できる事業であろうと言えるかと思えます。ということで、よろしいでしょうか。

(2) 令和3年度の企業版ふるさと納税の状況について

【会長】

それでは、議題2に移ります。

令和3年度企業版ふるさと納税の状況について、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】

資料2に沿って説明。

【会長】

それでは、令和3年度企業版ふるさと納税の状況について、説明をいただきましたけれども、ご質問、確認したいこと等ありましたらお願いいたします。いかがでしょうか。

【委員】

こういった取組がどんどん進むといいですね。

【会長】

ほかにいかがでしょうか。

ネックは、白井の中に本社を置くとか、オーナー事務局を置くとかというのは駄目なわけですね。だから、そこが一つのネックになるかなという感じがします。

前にこの会議で質問がありましたのは、意見として、白井に住んでいて外で活躍して

いる人、そういう人にPRしていったらどうかというような意見がありましたけれども、そういう方向が重要ですよ。工業団地の今回の場合のような、工業団地に所在を置く会社の関連企業というのは、そんなに多くないでしょう。

【委員】

例えば〇〇さんは、事業所はありますけれども、本社は都内ですよ。そういった場合はここを指定できるのですか。

【事務局】

おっしゃるとおり、できます。

【委員】

それは市として、市長さんが〇〇さんに行って、頭を下げて「企業版ふるさと納税してください」と言えば、するかもしれない。

【会長】

重要なことです。そういうところのリストを、こういう企業がありますというリストを作る。

【委員】

〇〇さんも本社は墨田区ですか。それほどの企業がみんな東京に本社を持っている。〇〇さんもそうですね。

【会長】

〇〇さんね。あそこはいいかもしれません。

【委員】

工業団地協議会を考えたら結構あると思います。その代わり、そういう会社さんに対して、市が素晴らしいとって何か形にさせていただけると、お互いにWin-Winの関係ができるのではないのでしょうか。

以上です。

【会長】

多分そうだと思いますけれども、寄附というのは心ですから。委員さん、よろしく願いしますということです。今のところは、この1件ですけれども、どんどん増えていくことを期待して、先ほど冗談話のようになりましたけれども、外で活躍されている、白井からいて住んでいたり、あるいは育ったりして外で活躍している企業にお願いしていくと。そういう点では、委員さんの力をお借りするというようなことも必要なのかなと思います。

この点はよろしいでしょうか。報告ですので、これで終わりにしておきたいと思います。

(3) 令和3年度の指標について

【会長】

それでは、議題3、令和3年度の指標について、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】

資料3に沿って説明。

【会長】

それでは、今、事務局から、令和3年度の指標につきまして説明をいただきました。連動している第5次総合計画後期基本計画、初年度でまたコロナ禍ということもありまして、実績値が芳しくないものや、まだ始まっていないものもあるということでした。これから白井市第2次まち・ひと・しごと創生総合戦略の着実な推進が図られていくことを願っております。

今の事務局からの説明に対しまして、質問、確認したいこと等がありましたらよろしくお願いたします。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

よろしいといえますか、まだ始まってこれからというところもありますけれども、今のところはこういう状況だという確認となりますけれども、一応了解いただいたということでよろしいでしょうか。

それでは、議題はこれで終了となります。

最後に、事務局から何かありましたらお願いたします。

【事務局】

本日はお疲れさまでした。貴重なご意見と慎重なる審議をいただきましてありがとうございます。

今日の会議の冒頭で会長さんからご挨拶の中であったように、本審議会の委員の方々の任期が6月5日をもって終了となります。委員の皆様におかれましては、3年間の長い間、慎重なるご審議と円滑なる会議の運営にご協力いただきましてありがとうございました。

今後とも市行政の推進のため、引き続きご理解とご協力をいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いたします。今後の審議会の委員につきましては、改めて事務局からご連絡をさせていただきますので、よろしくお願いたします。

事務局からの連絡は以上になります。

【会長】

どうもご苦勞さまでした。長い間どうもありがとうございました。